

一〇二二年一月二六日

眼を閉じて過す術後や夕時雨 こすもす
池の面落葉が埋めつくしけり ぽんこ
茶の花や清楚旨とす志 わかば
亡夫の服孫に似合ひて冬うらら はく子
木の葉髪いふこときかぬ脛撫せて なつき
這ひ這ひの嬰膝に来て冬ぬくし なつき
藪巻の結び目に凝る庭師かな 愛 正
不穏なる間違ひ電話うそ寒し 素 秀
唇に冷たき亡夫のハーモニカ む べ
晴れ渡る富士を隠せる柿すだれ はく子
黙々と門前を掃く冬帽子 ぽんこ

毎週句会秀句・みのる選・一〇二二年一月二七日